

教師個々の省察的資質伸張を支援する指導内容についての研究

最終更新日：2016年5月16日

【プロジェクト代表者】
教職実践講座
教授
若木 常佳

キーワード

・省察力の育成と伸長 ・自己省察記録分析 ・インタビュー

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

1. 研究の目的

教師個々の省察力の育成・強化のために必要な指導内容やサポートのあり方を、具体事例から導出すること。

2. 研究の内容と方法

本研究では、教師が自己との継続的な対話を行うことで自己の成長過程を自ら捉え、自己の内面を教師として望ましい姿に育てていくための方法として「統合された国語教育自覚史」(野地潤家)に注目し、その具体を取り上げて追究した。具体として取り上げるのは「国語実践ノート」を20年以上にわたって毎年1冊継続して作成している山崎直人の実際の姿であり、自己省察記録の分析・考察と半構造化インタビューを行った。

3. 結果と意義

(1)結果

20冊の「国語実践ノート」の分析・考察と半構造化インタビューを併用し、山崎が自己の内面を教師として望ましい姿に育てていく様子を辿ることにより、教員を養成・指導する機関が求める自己の内面を教師として望ましい姿に育てていくために必要な指導内容やプロセスを捉えた。

それらは、他者に学び、他者の実践や他者の導き出した理論を模索・探究し、選択してそれらを解釈し、「『頭の中』に入って増殖をつづけ一般性をおびるような具体」となっていく様子であり、教師として望ましい姿に育てていくために必要な指導内容やプロセスに手がかりとなること(1点目は被学習者段階での体験の内容、2点目は体験と情動の関係、3点目は出会う順序、体験する順序、4点目は身近なモデルの存在、5点目は他者から提示される指導内容を相対化できること)である。

(2)意義

教師個々の省察力の育成・強化にあたり、大学や大学院、学校現場で行うべき具体的な指導内容やサポート内容とそれらの実施時期の模索に反映や指導のための教材を開発に寄与する。「学び続ける」教師の具体を示すとともに、教師個々の省察力の育成課程のモデルとして考えることもでき、今後の教師教育において、意義あることである。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

研究成果について、教員養成課程での具体的な指導内容やサポート内容の開発に活用するとともに、対象者の身内に省察的資質を根付かせるためのプログラムの構築の基盤として活用する。

加えて教職実践講座教育実践力開発コース教員で共有することにより、教職大学院で行う「課題演習」や実習の省察場面においての指導内容や指導のあり方について理解を深め、院生指導に活用する。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成27年度学長裁量経費研究推進支援

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

- 1 福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻・教授・若木常佳・全体計画立案, 理論構築, 実践分析
- 2 長崎市立大浦小学校・校長・山崎直人・実践提供